

インフラ型建築の機能複合による公共空間用途の多様化に関する研究

Research on diversification of public space use by combining functions of infrastructure-type architecture

岩崎 瑛美

IWASAKI, Eimi

概要：本研究ではインフラ型建築について注目する。今日ではインフラ型建築の機能は複合化している傾向があり、人のアクティビティ空間としても利用されている事例が存在する。従来は集客や一般市民が立ち入ることを想定していない、いわばデッドスペースとなっていた空間の活用が実現可能になったのは以下のような背景が遠因となっていると考えられるが、その実態は明らかとなっていない。本研究は、これまでの公共空間とは異なるユニークな独自の空間体験をもたらしているインフラ型建築の公共空間をハイパーパブリックスペース（HPS）と定義し、インフラ型建築がその機能の複合化を通じて公共空間の用途をどのように多様化させ、利用者に新しい体験を提供しているかを明らかにすることを目的とした。そのために、HPSとしての特性を定義し、具体的事例を通じてその形成過程や社会的成立背景、利用者への影響を多角的に分析することとした。また、今後のこうした大規模複合化する公共空間を備えた都市建築プロジェクトを展開する上での基礎的知見を得ることとした。

Summary: This study focuses on infrastructure-type architecture. Today, infrastructure-type architecture tends to have multiple functions, and there are examples where it is also used as a space for human activity. The following background is thought to be a distant cause of the fact that it has become possible to utilize spaces that were previously dead spaces, so to speak, not intended for visitors or the general public to enter, but the actual situation has not yet become clear. This study defines the public space of infrastructure-type architecture that provides a unique and original spatial experience different from conventional public spaces as hyper public space (HPS), and aims to clarify how infrastructure-type architecture diversifies the use of public space through the complexification of its functions and provides new experiences for users. The purpose of this study was to clarify how infrastructural architecture diversifies the uses of public space through the combination of its functions and provides new experiences for users. To this end, we defined the characteristics of HPSs and analyzed their formation process, social background, and impact on users from various perspectives through specific examples. In addition, we obtained basic knowledge for the development of future urban architectural projects with such large-scale complex public spaces.

キーワード： インフラ、公共空間、パブリックスペース、オープンスペース、アクティビティ空間

Keywords: Infrastructure, public space, public space, open space, activity space

1. 研究の背景と目的

近年、都市の過密と過疎の二極化が深刻になって行く中、人口減少時代といわれる世界の都市圏において持続可能な都市社会を作るための具体策としてコンパクトシティが挙げられる。都市の生活機能や行政サービスを公共交通と連携して居住地域と都市機能をそれぞれ適切に配置することで、コンパクトなまちづくりを行うというものである。このような流れの中、人口が集中する過密した都市部では、再開発などによって造成される建築空間の巨大化が起きている。また、高層化のみならず、大規模化、複合化し、これまでにない空間体験を生んでいる。このような現象下で、建築物が密集した都市では充分で充実した公共空間が必要とされており、まちのデッドスペースを上手く活用していくことが解決策の一つになるだろう。

そこで、本研究ではインフラ型建築について注目する

こととした。今日ではインフラ型建築の機能は複合化している傾向があり、人のアクティビティ空間としても利用されている事例が存在する。

このような従来は集客や一般市民が立ち入ることを想定していない、いわばデッドスペースとなっていた空間の活用が実現可能になったのは以下のような背景が遠因となっていると考えられるが、その実態は明らかとなっていない。一つ目は、都市の過密化、複雑化が進み、都市インフラと一体化した巨大建築プロジェクトの展開、必要に迫られたタイミングでの開発、完全に0から始める開発が存在することである。二つ目は、気候変動や環境に配慮した計画の進展、設備技術の発展が関係していることである。三つめは、設計ツールの進化が影響していることである。四つ目は、メディアの変化、公共空間への価値観の変化が起きていることである。本研究は、上記のような特性を持ったインフラ型建築の公共空間は、

これまでの公共空間とは異なるユニークな独自の空間体験をもたらしているとの仮説から、ハイパーパブリックスペース（HPS）と定義し、インフラ型建築がその機能の複合化を通じて公共空間の用途をどのように多様化させ、利用者に新しい体験を提供しているかを明らかにすることを目的とした。そのために、HPSとしての特性を定義し、具体的事例を通じてその形成過程や社会的成立背景、利用者への影響を多角的に分析することとした。また、今後のこうした大規模複合化する公共空間を備えた都市建築プロジェクトを展開する上での基礎的知見を得ることとした。

2. 研究の方法

本研究の方法として、まず始めに、時代背景と公共空間の変化について整理し、従来の公共空間の成立を整理する。次に、インフラ型建築の事例を調査し、HPSに該当するものと該当しないもので分けて収集する。そして、HPSに該当する事例のHPS度について評価する。これらの調査から、HPSの社会的成立背景と開発プロジェクトの特徴、空間形成の特性について分析する。最後に、HPSの代表的な事例についてのInstagramの投稿の画像と動画を調査し、人々を魅了しているHPSの特徴について分析する。以上より、このようなインフラ型建築の機能が複合化している実態を明らかにする。

3. HPSに該当する事例と該当しない事例

本調査では、建築雑誌「新建築」（1995年～2024年）、WEBメディア「ArchDaily」に掲載されている物件数67,761件のうち、HPSの対象候補として、35件を抽出した。そして、以下をHPSに該当する事例の基準とした。

- ①インフラ機能をもつこと、インフラ機能がパブリックスペースと接していること
- ②延床面積が5,000㎡以上であること
- ③建築物の外部空間がパブリックスペースとして利用されていること

これらの基準より、23件の対象物件(表1)と12件の非対象物件(表2)に分類した。

調査結果より、HPSに該当する事例と該当しない事例の違いとしては、開発規模の大きさや、屋外空間の充実度、屋内外のアクティビティ空間の充実度や完成度が挙げられる。特に、HPSに該当する事例は、該当しない事例と比較すると、屋内外のアクティビティ空間の計画が綿密にされていることが分かった。

4. 各事例のHPS度の評価

調査で抽出した「HPSに該当する事例」をある基準を設けた項目で評価することで、HPSの特徴を明らかにすることとした。また、各評価項目に配点を定めることで、

HPSにどのくらい該当しているかの度合いも分析することとした(以下HPS度と言う)。

調査結果(表3)より、「多様な活動ができる機会」は、上位圏、下位圏ともにほとんどが点数を満たしていた。HPSに該当する事例では、事前に様々なアクティビティが想定され、空間計画に取り込まれていることが分かった。また、空間計画に加えて、イベントや集会などのソフト面での企画にも柔軟に対応していることが分かった。「機能の独自性」では上位圏の事例が評価を満たしている。例としては、Zaryadye Parkのモスクワ川に伸びる片持ち式の展望台である「The Floating Bridge」や、北極の条件をシミュレートしたユニークなアートインスタレーションである「The Ice Cave」などが挙げられる。

「独自の建築デザイン」、「ストーリーや背景」は上位8件全てが両方とも満たしている。例としては、デンマークのコペンハーゲンの都市公園「Superkilen」が挙げられる。ユニークなデザインと文化的包摂性で知られており、この公園のコンセプトと背景は、コミュニティとグローバルな多様性というアイデアに深く根ざしている。公園が住民の価値観とアイデンティティを反映しており、異なる文化間の象徴的かつ物理的な架け橋として機能し、共存と理解を促進している。この公園は多文化主義の象徴であり、コペンハーゲンのランドマークとなり、地元の人々と海外からの訪問者の両方を魅了している。

「地元経済への貢献」は、上位圏の訪問者数が多い傾向にある事例が評価を満たしている。東京スカイツリーでは、2012年から2024年で東京スカイツリー展望台への来場者数が累計5,000万人を達成した。2022年のニュース記事によると、東京スカイツリー開業10年の経済効果は約7800億円だとされている。ニューヨーク市のThe High Lineは、都市の景観の中に自然の生息地を再現したことで有名で、このように廃墟となったインフラを公共スペースに変えた初期の事例で最も有名な例の一つである。年間500万人の観光客を呼び込み、約22億ドルの新たな経済活動に直接貢献していると考えられている。













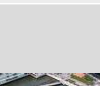
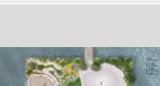






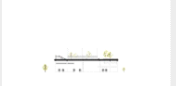




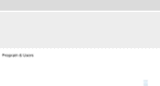

5. HPSの社会的成立背景

HPSの社会的成立背景を、近代建築思想の流れ、都市インフラと巨大建築プロジェクトの展開、気候変動や環境に配慮した計画の進展という3つの視点から分析した。その結果、以下の知見が得られた。

モダニズム建築が「Less is more」に象徴される機能性と合理性を追求する一方で、ポストモダニズム建築は「Less is a bore」の思想のもと、多様性や地域性、象徴性を建築に取り入れた。これにより、インフラ型建築も単なる機能の集合体ではなく、文化的な意味や象徴的価値を持つ設計が求められるようになった。現代建築ではさらに「More and more, more is more」といった大胆で複雑な形態や多目的性が追求され、HPSのような空間が地域に新しい価値を提供する基盤を築いた。

表1 HPS に該当する事例

名称	パース	設計	竣工年度	場所	延床面積	配置図	断面図	【インフラ機能】 + 【その他の用途】	工事種別
アクロス福岡		株式会社日本設計、株式会社竹中工務店九州支店、エミリオ・アンパース	1995	福岡県福岡市	97,364㎡			【ステップガーデン】 + 【事務所、商業、文化複合施設】	新築
メテオプラザ		高松伸建築事務所	1995	鳥取県松江市	5,588㎡			【ターミナル】 + 【ミュージアム、プール、ホール、レストラン】	新築
江坂公園		日建設計	1996	大阪府吹田市	23,000㎡			【駐輪場、駐車場】 + 【公園、図書館、レストラン、カフェ】	新築、改修
横浜港 おおさん橋国際客船ターミナル		Foreign Office Architects (FOA)	2002	神奈川県横浜市	48,000㎡			【埠頭】 + 【広場、芝生、ホール、駐車場、出入国ロビー、レストラン、ショップ、ピクニック】	新築
オアシス 2 1		大林組	2002	愛知県名古屋	25,185㎡			【パスターミナル】 + 【公園、店舗、広場、空中通路】	新築
なんばパークス		日建設計	2003	大阪府大阪市	344,924㎡			【駐車場】 + 【商業店舗、馬券売り場、屋上庭園】	新築
The Seattle Public Library		OMA LMN	2004	アメリカ、シアトル	38,300㎡			【図書館】 + 【図書エリア、閲覧エリア、講堂、キッズルーム、ショップ、カフェ、ラウンジ、PCエリア、ワークショップエリア、会議室、フォトスポット、展示スペース、音楽練習室、本部】	新築
アイランドシティ中央公園中核施設 くりんぐりん		伊東豊雄建築設計事務所	2005	福岡県福岡市	5,033㎡			【公園】 + 【オープンスペース、温室、ワークショップルーム】	新築
アメリカ山公園		八千代エンジニアリング	2009	神奈川県横浜市	公園面積は5,520㎡ 駅舎の増築部分は延べ3,954㎡			【駅舎】 + 【公園】	増築
The High Line		James Corner Field Operations, Diller Scofidio+Renfro	2009	米国、ニューヨーク州	7.08acres(28,651㎡)			【高架橋】 + 【庭園、屋外ファニチャー、パブリックアート、広場】	コンバージョン
Superkilen		BIG Architects Topotek 1 Superflex	2012	デンマーク、コペンハーゲン	27,000㎡			【公園】 + 【広場、遊具、アートオブジェ、カフェ】	新築
東京スカイツリー・スカイツリータウン		日建設計	2012	東京都墨田区	229,728㎡			【電波塔】 + 【展示場、物販店舗、飲食店舗、駐車場、事務所、ホール、博物館、水族館、地域冷暖房施設】	新築
大橋ジャンクション		ジャンクション：日本シビックコンサルタント株、街オリエントタルコンサルタンツ 屋上公園：秩創建/（一財）、日本緑化センター 外構・周辺整備：日建設計シビル/（公社）日本交通計画協会	2013	東京都目黒区	大橋再開発地域面積：約38,000㎡ ①ループ屋上（目黒天竺通車線）約7,000㎡ ループ内側（オービス夢ひろば）約3,000㎡ （おまほじまの社）約1,100㎡ ②大橋ジャンクション敷地面積約25,000㎡ 地上部 約175m×約130m×約35m 地下部 約1,900m×2層（深さ：約36m） ループ部 一周約400m			【ジャンクション】 + 【屋上公園、多目的広場】	新築
The Luchtsingel		ZUS	2015	オランダ、ロッテルダム	推定1,000㎡			【ペDESTリアンデッキ】 + 【テラス要素、遊び場、広場】	新築

名称	パース	設計	竣工年度	場所	延床面積	配置図	断面図	【インフラ機能】 + 【その他の用途】	工事種別
Zaryadye Park		Diller Scofidio + Renfro	2017	ロシア、モスクワ	141,640㎡			【公園】 + 【展望台、メディア・センター、自然センター、レストラン、ミュージアム、円形劇場、コンサートホール】	新築
CopenHill		BIG Architects	2019	デンマーク、コペンハーゲン	41,000㎡			【廃棄物発電所】 + 【スキースロープ、リフト、ランニングコース、クライミングウォール、フィットネスエリア、展望台、カフェ】	建て替え
Jewel Changi Airport		SAFDIE ARCHITECTS	2019	78 Airport Boulevard, Singapore	135,700㎡			【空港】 + 【植物園、人工滝、アトラクション、飲食店、店舗】	新築
Miyashita Park		日建設計	2020	日本、渋谷	46,000㎡			【公園】 + 【ホテル、商業店舗、駐車場、スケパーパーク、サンドコート、ボルダリングウォール】	新築
Little Island Park		Heatherwick Studio MNLA	2021	アメリカ、ニューヨーク	11,000㎡			【棧橋】 + 【橋、遊歩道、飲食屋台、広場、芝生、円形劇場、地下室(茶屋)、眺望台】	新築
Shenzhen SkyPark		Crossboundaries	2021	中国、深セン	77,000㎡			【交通機関】 + 【グラウンド、観客席、レジャーバス、ベドストリアンバス、スポーツバス(ランニング/スケート)、芝生、緑化エリア】	新築
Biryank Metro Plaza		Ashrafi & Zad	2021	イラン、テヘラン	8,500㎡			【駅舎】 + 【オープンスペース、スケパーパーク、バスケットボールコート】	増築
One Green Mile		MVRDV StudioPOD	2022	インド、ムンバイ	長さ200m 2.3 acres			【主要幹線道路の高架下】 + 【ランジ、ジム、日陰の座席エリア、遊び場、イベントスペース、読書スペース】	新築
Silt Middelkerke		Bureau Bouwtechniek, DELVA Landscape Architecture, OZ architectural studio ZJA	2024	ベルギー、ミッデルケルケ	5,000㎡			【堤防】 + 【カジノ、レストラン、ホテル、イベントスペース、広場】	新築

都市の過密化が進む中で、既存インフラの再利用や新たな大規模複合施設の建設が行われている。例えば、ニューヨークの「The High Line」は、廃止されたインフラを再活用して公共空間としての役割を持たせたプロジェクトは、都市のデッドスペースを人々が利用可能な空間に転換し、地域の経済活性化や観光振興に大きく寄与している。また、HPSのような開発には資金調達工夫が必要であり、民間からの投資を中心とした官民連携のプロジェクトや、クラウドファンディングによるプロジェクトが存在することが明らかとなった。

近年、気候変動や環境問題への意識の高まりに伴い、建築設計にも環境負荷を軽減する取り組みが求められるようになった。デンマークの「CopenHill」や、東京都目黒区の「大橋ジャンクション」のように、インフラ施設の環境的なデメリットを先進的な技術や柔軟な建築設計で解決している事例があることが明らかとなった。このように、環境負荷を軽減しつつ公共空間としての機能を

持つ計画は、HPSの成立における一つの基盤となっている。

6. 空間形成の特性

6-1 設計ツールの進化

今日では、設計段階に3Dのデジタルツールを用いることが定番化している。これは3Dから2Dという従来の設計過程の逆転が起こっており、3次元曲面の増加の要因となっている。HPSでは3次元曲面を利用したデザインが起用されており、愛着が沸き、写真映えするアイコン的なデザインが多く見られる。建築デザインの特徴に、勾配を活かしたバリアフリーなデザインも多く、周囲のどこからでもアクセスしやすい動線計画は、なだらかに複数の機能が繋がれている。

6-2 開発の基盤となる官民連携の体制

HPSのような空間では、設計・建設段階から運営・維

表2 HPSに該当しない事例


名称	パース	設計	竣工年度	場所	延床面積	配置図	断面図	【インフラ機能】 + 【その他の用途】	工事種別
マイカル三田・ポロロッカ		エミリオ・アンパース&アソシエイツ	1993	兵庫県三田市	42,550㎡			アメフトコート、テニスコート、レストラン、メモリアルホール、アトリウムガーデン、宿泊施設、会議室	新築
恵比寿ガーデンプレイス		久米設計	1994	東京都渋谷区	476,125㎡			広場、商業店舗、オフィス、住宅、ホテル、美術館	新築
トタンとレストランとガソリンスタンド		出江寛、出江建築事務所	1994	京都府亀岡市	1,546㎡			ガソリンスタンド、レストラン、宴会場、ホール	新築
中三弘前店、蓬萊橋広場公園		毛鋼毅建築事務所	1995	青森県弘前市	26,487㎡			【橋、公園】 + 【公園、商業店舗、多目的ホール】	改修、増築
新京橋交流施設		荒木正彦設計事務所	1995	高知県高知市	1,387㎡			【駐車場】 + 【展示コーナー、屋上庭園、広場】	新築
馬見原橋		青木淳建築設計事務所	1995	熊本県阿蘇郡	橋長38m			【橋】 + 【歩道、居られる空間、水面を覗ける穴】	新築
押上駅前自転車駐車場		日建設計	2012	東京都墨田区	4,048㎡			【自転車駐輪場】 + 【屋上テラス】	新築
JR神田万世橋ビル+マーチエキュート神田万世橋		ジェイアール東日本建築設計事務所	2013	東京都千代田区	28,452㎡			【鉄道高架】 + 【オフィス、商業店舗】	改築、増築
福岡市水上公園		スピングラス・アーキテクト、リズムデザイン、エスティ環境設計研究所	2016	福岡県福岡市中央区	626㎡			【公園】 + 【商業店舗】	新築
中央区立水谷橋公園・まなびの森保育園銀座		楠山設計	2020	東京都中央区	1,599㎡			【公園】 + 【公衆便所、防災備蓄倉庫、保育所】	新築
GLP ALFALINK 相模原		SAMURAI/佐藤可士和、日本GLP、竹中工務店、東急建設	2023	神奈川県相模原市	共用施設棟 331,474㎡			レストラン、コンビニ、運動コート	新築
Turgutreis Community Center		UN Architectural Services	2023	トルコ、トゥルクトレイス	8,000㎡			【立体駐車場】 + 【アトリエ、レストラン、ショップ】	新築

表3 HPS 度の調査結果

開発規模	アクセシビリティ、分りやすさ			利用可能時間	多様な活動ができる機会			地域貢献度			ユニークな特徴・ストーリー性			維持管理			官民連携の体制	合計点
	主要動線からのアクセス	公共交通からの距離	案内や標識の充実度		アクティビティの種類	集会・イベントの頻度	専用施設の充実度	地域のランドマーク性	地元経済への貢献	コミュニティ活動への支援	独自の建築デザイン	ストーリーや背景	機能の独自性	清潔さ	安全性	維持体制の透明性		
Jewel Changi Airport	3	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	24
Zaryadye Park	3	1	1	1	3	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	2	22
Little Island Park	3	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	3	22
東京スカイツリー・スカイツリータウン	3	1	1	1	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	3	22
Superkilen	3	1	1	1	3	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	2	21
CopenHill	3	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	3	21
Miyashita Park	3	1	1	1	2	1	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	3	20
The High Line	3	1	1	1	2	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	3	20
江坂公園	3	1	1	1	3	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	1	3	20
横浜港 おおさん橋 国際客船ターミナル	3	1	1	1	3	1	1	0	1	0	0	1	1	0	1	1	2	19
大橋ジャンクション	3	1	1	1	2	1	1	0	1	0	1	1	0	0	1	1	3	19
Shenzhen SkyPark	3	1	1	1	2	1	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	2	19
アクロス福岡	3	1	1	1	3	1	1	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	18
なんばパークス	3	1	1	1	2	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	18
The Luchtsingel	0	1	1	1	3	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	2	18
オアシス 21	3	1	1	1	2	1	1	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	17
アイランドシティ中央公園 中核施設ぐりんぐりん	0	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	2	16
Seattle Central Library	3	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	0	1	1	0	15
アメリカ山公園	0	1	1	1	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	3	15
Silt Middelkerke	0	1	1	1	2	1	1	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	14
One Green Mile	0	1	1	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1	0	1	0	2	12
メテオプラザ	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	10
Biryanak Metro Plaza	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0	9

持管理に至るまで、官民が協力してプロジェクトを推進することが重要な要素である。官民連携の体制は、公共部門が持つ土地やインフラ整備の権限と、民間部門が有する資金、技術、運営ノウハウを融合させ、HPSの形成を可能にするための基盤となっている。

官民連携を通じた HPS の形成には多くの利点がある一方で、課題も存在する。例えば、公共性と収益性のバランスをいかに維持するか、また、地域住民との合意形成をどのように図るかが重要な論点となる。

その他の課題としては、プロジェクトの長期的な維持管理においても、費用負担や役割分担が明確でなければ、計画が頓挫するリスクがある点である。適切に空間が維持されるには、The High Line のように、地域住民や地域団体からの協力も必要であると考えられる。今後、HPS の形成を促進するためには、以下のような方策が求められる。まず一つ目は、官民の役割分担や契約内容を明確化し、透明性の高いプロジェクト運営を実現する明確なガバナンスの確立である。二つ目は、プロジェクト計画段階から地域住民の意見を反映させ、合意形成を図る、地域住民の参加型プロセスを行うことである。三つ目は、公共性・収益性・公共空間の持続可能性を総合的に評価する基準を確立し、官民連携プロジェクトの成功指標とする公共空間の評価基準の整備である。

7. 利用者の受容のされ方(Instagram による分析)

昨今では、スマートフォンの普及によって SNS の利用が一般的になっており、コミュニケーションを取る以外に情報を得る手段としても利用されている。HPS に該当する事例のほとんどは公式サイトや公式 SNS を設立しており、多くの訪問者がタグ付けをして空間の様子や記念写真などをシェアしている。また、これらの公式サイトや公式 SNS から施設の利用に関する情報やイベント

などの情報が発信されていることから、ユーザーはこのようなメディアの媒体を通して、HPS の情報やロコミを受け取り、実際にその場所に足を運んでいると考えられる。このような現象は、HPS のような公共空間の観光地化にも貢献していると考えられ、商業空間だけでなく、公共空間にも話題性や競争性が生まれるようになったと考えられる。

総務省情報通信政策研究所の「令和3年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」より、SNS では動画・画像共有サービスの「Instagram」が高い利用率になっていることが分かった。また、事前調査より、HPS に関する Instagram の動画・画像の共有は頻繁に行われおり、一般的になっていることが明らかになったため、利用者の空間の評価や使われ方を調べる方法として有用であると考えた。このような背景より、本研究では HPS に該当する事例である Jewel Changi Airport、Zaryadye Park、Little Island Park を対象として、Instagram による公共空間の調査を行うこととした。調査内容は、建築事例の公式アカウントにタグ付けされている投稿を対象とし、投稿されている画像・動画を調査した。動画の場合、事例に関係するシーンの内、最も長時間映されている主題を対象とし、一つの投稿で事例に関連する複数の写真・動画が投稿されている場合は、それぞれ調査対象とした。人のセルフィーや集合写真は背景を対象とし、大部分が人で背景の判定が不可能な場合は調査から除外することとした。調査結果は表4~6となっている。

8. 結論

本研究では、HPS が都市において多様な活動と文化的交流を促進する場として機能することを示し、その成功は設計技術の進化、官民連携の体制、利用者中心の空間設計が鍵であることを明らかにした。また、HPS 度の評

価値より、事前に利用者のアクティビティを見込んだ様々な空間計画や、ソフト面の利用者のアクティビティを促進するイベントなどの企画が、HPSの用途多様化に寄与していることを示した。Instagramの調査では、利用者が空間をどのように認識し、体験しているかを定量的に把握し、HPSが社会的および文化的価値を創出する役割を担っていることを確認した。投稿から、空間の利用実態や利用者の能動的なアクティビティの様子を収集でき、従来の公共空間よりも豊かで多様な体験を提供していることが明らかとなった。本研究の後半ではInstagramを利用した調査を行ったが、このようなSNSによる空間の評価や表現は活発に行われており、利用実態や利用者の空間に対する受容のされ方について分析するのに有用であった。また、それぞれの建築事例で見られる独自のアクティビティ空間は、人々を魅了し、SNSという形で多くの人にその様子がシェアされていることが明らかとなった。SNSと公共空間の関わりは今後益々密接になっていくと予想され、SNS上の人のネットワークと公共空間の連携が盛んになり、場所と人を繋ぐコミュニティ形成の重要な仕組みになっていくのではないだろうか。また、「映えの空間」が人々に与えているポジティブな影響が再評価され、HPSのような空間がさらに増していくことが考えられる。

参考文献

- 1) UR都市機構(2021年)「居心地が良く、使われる公共空間をつくるために」
https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/placemaking/lrmhph000001y14u-att/PLACEMAKING_HONSATSU_20210914.pdf (最終閲覧日 2024/12/29)
- 2) 松本尚浩(2011年)「曲面建築論 -近現代建築における曲面表現の諸相-
- 3) 朴柄昊・飯田晶子・横張真(2017年)「都市公園の運営における官民連携事業の公共性及び収益性に関する研究」日本都市計画学会 都市計画報告集 No.16
- 4) 伊藤伸一(2008年)「官民連携のまちづくりのポイント」 JICE REPORT vol.13
- 5) 総務省情報通信政策研究所(2022年)「令和3年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」
https://www.soumu.go.jp/main_content/000831289.pdf (最終閲覧日 2024/12/29)

表4 Jewel Changi Airport

カテゴリー	枚数
①近未来的大自然空間 ・人工の滝 ・滝の水しぶき ・MRT ・MRTからの景色 ・滝とMRT ・滝のライトアップ ・その他ライトアップ ・植栽	150
②商業空間 ・商業ポップアップ空間 ・クリスマスツリー ・滝とクリスマスツリー ・オブジェ ・飲食関連 ・ロボット	129
③建築デザイン ・建築の外観 ・建築の屋根 ・遊歩道 ・眺望台	16
④アクティビティ ・人工芝 ・Walking Net ・滝の前でアクティビティ	7

表5 Zaryadye Park

カテゴリー	枚数
①アート ・展示作品 ・インスタレーションアート	100
②集いの場 ・人のパフォーマンス ・集会の様子 ・観客の様子	75
③自然と生き物 ・植栽 ・生き物 ・池	49
④街と水辺 ・街の景色 ・歴史的建造物 ・水面上の景色 ・船	43
⑤建築デザイン ・建築の内観 ・建築の外観 ・眺望台 ・事例全体の外観 ・円形劇場 ・建築模型	35
⑥アクティビティ ・遊歩道 ・飲食関連 ・Ice Cave ・ベンチ ・遊具	21
⑦テクスチャ ・オリジナルのマンホール ・外壁のテクスチャ ・地面のテクスチャ	3

表6 Little Island Park

カテゴリー	枚数
①建築デザイン ・事例の外観 ・建築の構造体のアップ ・谷状の建築デザイン ・アーチ状の建築デザイン ・入口 ・事例の鳥瞰 ・眺望台 ・近隣の橋から事例を撮影したものの ・ベット ・斜面 ・階段	128
②街と水辺 ・街の景色 ・水面上の景色 ・事例とビルの景色 ・埠頭の木の柱 ・栈橋 ・船 ・ワン・ワールド・トレード・センター ・水面	44
③散策 ・植栽 ・遊歩道 ・アート遊具 ・事例のロゴマーク	34
④集いの場 ・人のパフォーマンス ・円形劇場 ・広場	30